

令和 5年 9月21日 (木)

日 本 緑 化 工 学 会

令 和 5 年 通 常 総 会

於：新潟市コンベンションセンター
朱鷺メッセ 会議室 302
新潟県新潟市中央区万代島6-1

－ 次 第 －

議 案

- (1) 第一号議案 令和4年度事業報告
- (2) 第二号議案 令和4年度決算報告
- (3) 第三号議案 令和5年度事業計画
- (4) 第四号議案 令和5年度収支予算
- (5) 第五号議案 役員の改選
- (6) その他

日本緑化工学会 <http://www.jsrt.jp/>

(大会会期中・会議関係日程)

9月20日 11:15～12:45 評議員会 (201A)

9月21日 13:00～14:00 学会賞表彰式 および 定時総会 (302)

第一号議案

日本緑化工学会 令和4年度事業報告

(令和4年／2022年8月1日～令和5年／2023年7月31日)

1. 第53回日本緑化工学会大会 3学会合同大会「ELR2022 つくば」として開催

開催年月日：令和4年9月20日～23日

開催地：つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園）および周辺

発表題数：283題（口頭発表 107件 ポスター発表 176件）

当学会発表件数のうち 論文 15件、技術報告 35件

参加者：766名（会場参加 472名、オンライン参加 294名）

エクスカージョン（小貝川コース・筑波山コースの2コース）実施（9月20日）

台風の影響で小貝川コースは中止。筑波山コースのみ実施

公開シンポジウム「Nature Positive を実現させるにはー2030年にむけて」を開催

（9月21日）会場＋オンライン開催

自由集会（企画研究集会） 16件 会期中に開催

2. シンポジウム

(1) ELR2022 つくばにて公開シンポジウムを開催

開催年月日：2022年9月21日（水） 13:30～16:30

会場：つくば国際会議場 中ホール（オンライン配信を併用）

テーマ：Nature Positive を実現させるにはー2030年にむけて

参加者：会場（ホール及び別室）202名、WEB参加 603名

3. 現地見学会

(1) ELR2022 つくば エクスカージョンを実施（定員をバス乗車半数に限定して実施）

開催年月日：2022年9月20日（火）

筑波山コース 参加者：12名 ※小貝川コースは台風の影響で中止

※企画・事業部会の企画による見学会は行いませんでした。

4. 緑化工セミナー（記念・企画事業）

学会諸活動をPRすること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を企画・開催。

①「技術を学べるセミナー」 企画担当：梶川昭則理事

開催日：2023年2月22日

実施方法：オンライン（Zoom ミーティング）

テーマ：「グリーンインフラの評価と活用方法～グリーンインフラを身近に感じる手法紹介～」

参加者：104名

②「未来の緑化工セミナー」 企画担当：倉本 宣理事

開催日：2023年7月15日

実施方法：オンライン（Zoom ミーティング）

テーマ：「ヒトが作る生物多様性」

話題提供者：片山暖那 古野正章

参加者：47名

5. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「ナラ枯れとその周辺課題について考える、連続講演会」を毎月 1 回オンライン開催（共催） 主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

周知方法：運営メーリングリスト登録者へ案内を送付

参加人数：各回 30～40 名

第 5 回：2022 年 8 月 24 日「森が元気に、人が元気に！ 矢作川 森の健康診断」

第 6 回：2022 年 9 月 29 日「クビアカツヤカミキリの市民科学的調査」

第 7 回：2022 年 10 月 19 日「2022 年のナラ枯れをふりかえる」ML 参加者

第 8 回：2022 年 11 月 16 日「菊炭と台場クヌギ」

第 9 回：2022 年 12 月 21 日「カエントケの生態～分類・ナラ枯れ・毒成分」

第 10 回：2023 年 1 月 11 日「尼崎の森中央緑地 100 年の森づくり」

第 11 回：2023 年 2 月 6 日「「谷戸の家」の背景の雑木林の変遷」

第 12 回：2023 年 3 月 9 日「日本一の里山林と台場クヌギ」

2023 年 4 月からは新シリーズ：「未来の里山における人と自然を考える 連続講演会」として開催

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

第 1 回：2023 年 4 月 26 日 石森佳子「生物多様性の要・地域の在来植物での花壇づくり」

第 2 回：2023 年 5 月 16 日 磯谷達宏「丘陵地で発生し得る地形的攪乱と植生」

第 3 回：2023 年 6 月 13 日 井田秀行「江戸時代から発生していたナラ枯れについて」

第 4 回：2023 年 7 月 3 日 山崎理正「カシノナガキクイムシの寄主探索様式について」

(2) 海岸林・沿岸域緑化研究部会 第 4 回公開勉強会（オンライン）の開催

開催日時：2022 年 8 月 26 日（金）17：00～19：00

開催方法：オンライン開催（zoom）

テーマ：「海岸の連続性を考える」

(3) 都市緑化技術研究部会 2022 年大会（ELR2022 つくば）にて研究集会を企画

開催日時：2022 年 9 月 21 日（水）16：45～18：30 会場：小会議室 406+オンライン

テーマ：ポストコロナ時代の魅力的な都市緑地を考える

(4) 斜面緑化研究部会

① 2022 年大会（ELR2022 つくば）にて研究集会を企画

開催日時：2022 年 9 月 21 日（水）18：45～20：30 会場：小会議室 406+オンライン

参加者： 約 50 名

テーマ：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」

② 日本学術会議公開シンポジウム / 第 15 回防災学術連携シンポジウム「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」（2023 年 4 月 11 日開催）への参加

話題提供：「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」橘 隆一（斜面緑化研究部会/東京農業大学）

③ 日本緑化工学会誌 48 巻 4 号（2023 年 5 月）へ特集「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」掲載

④ 日本緑化工学会誌 48 巻 4 号（2023 年 5 月）へ「斜面緑化研究部会 勉強会（第 10 回）開催報告」掲載

(5) 生態・環境緑化研究部会

① 2022 年大会（ELR2022 つくば）にて研究集会を開催

日 程：2022 年 9 月 22 日(木) 16：45～18：30 会場：小会議室 303+オンライン

参加者：120 名

テーマ：「30by30 を見据えて進める地域性種苗緑化の取り組み」

② 日本造園学会 ランドスケープ研究 86 巻 4 号（2023 年 1 月）の特集「在来の草本植物を用いた植栽事業の現状と可能性」へ「地域性種苗の緑化普及を目指した取り組みー阿蘇の草原植物の活用と地域活性化」を寄稿

③ 阿蘇の現地プロジェクトの継続および関連活動（阿蘇ワーキングチーム）

- ・現地活動 地域性種苗活用の現地流通仕組み作りや採取量、性状調査などを実施
- ・波野地域の方と共催の写真展「それぞれが見つけた阿蘇の自然と風景」2023 年 5 月開催
- ・環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と連携して地域性種苗の利活用促進に関わる活動を継続（2022 年度地域性種苗緑化の試験施工に関わる助言を行う「令和 4 年度阿蘇くじゅう国立公園における地域性種苗による緑化普及検討業務」を依頼され実施＝2023 年 3 月完了）
- ・阿蘇草原再生協議会への参加
- ・現地活動助成金：公益財団法人自然保護助成基金 協力型助成（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

(6) 緑・健康研究部会 編集部会と共同で研究倫理および論文投稿に関するセミナーを企画・開催

開催日時：2023 年 1 月 11 日（水）18：30～20：00 ZOOM によるオンライン開催

テーマ：「論文・技術報告の作成・投稿に関する注意点」 参加者：40 名

本セミナーを録画した動画は、以下の学会ホームページから視聴可能

http://www.jsrt.jp/publication/seminar_20230111.html

(7) ELR2022 つくば 企画研究集会

① 企画担当：緑化植物委員会

開催日時：2022 年 9 月 23 日（金）15：00～17：00 会場：小会議室 405+オンライン

テーマ：生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関するガイドラインの検討状況について

参加者：80 名

②企画担当：今西亜友美・岡 浩平

開催日時：9 月 21 日(水) 16：45～18：30 会場：小会議室 405+オンライン

テーマ：OECM で生きる！生物多様性に配慮した緑化学

③企画担当：小林達明・森本淳子・岡 浩平

開催日時：9 月 21 日(水) 18：45～20：30 会場：小会議室 405+オンライン

テーマ：生態系のレジリエンスと修復・緑化

④企画担当：平林 聡・加藤 颯

開催日時：9 月 22 日(木) 18：45～20：30 会場：小会議室 303, Zoom 併用

テーマ：i-Tree による生態系サービス評価・事例紹介と今後の課題

6. 学会誌の発行

- (1) 第 48 巻 1 号 (デジタル版+冊子版) : 令和 4 年 8 月 31 日発行 230 ページ(第 53 回大会特集号)
- (2) 第 48 巻 2 号 (冊子版) : 令和 4 年 11 月 30 日発行 114 ページ
- (3) 第 48 巻 3 号 (デジタル版+冊子版) : 令和 5 年 2 月 28 日発行 110 ページ
- (4) 第 48 巻 4 号 (デジタル版+冊子版) : 令和 5 年 5 月 31 日発行 82 ページ
 - ・第 48 巻 2 号に特集「技術資料への投稿のすすめ」を掲載
 - ・第 48 巻 3 号に特集「ポストコロナ時代の魅力的な都市緑地を考える」「i-Tree による生態系サービス評価―事例紹介と今後の課題」「OECD で生きる！生物多様性に配慮した緑化工学」「生態系のレジリエンスと修復・緑化」を掲載
 - ・第 48 巻 4 号に会告「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」および特集「技術を学べるセミナー：グリーンインフラの評価と活用方法」「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」を掲載

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行

2019 年発行分より LEE 誌はオンラインジャーナルとして発行されている。また 2023 年 1 月から個人オンライン購読料は不要になり、個人会員は LEE 誌の論文等に無料でオンラインアクセスできるようになっている（毎年 3 月頃にアクセス方法について学会員に案内）。

<https://link.springer.com/journal/11355/volumes-and-issues>

- (1) Vol. 18 No. 4 : 2022 年 10 月発行 (6 編)
- (2) Vol. 19 No. 1 : 2023 年 1 月発行 (18 編)
- (3) Vol. 19 No. 2 : 2023 年 4 月発行 (10 編)
- (4) Vol. 19 No. 3 : 2023 年 7 月発行 (18 編)

8. 令和 4 年度日本緑化工学会賞の授与

技術賞： 中村 華子

「地域性種苗を利用した植生再生技術の社会実装を目指した一連の研究」

9. CPD

- (1) ELR2022 : 森林分野 CPD として、13 名に述べ 23 のポイントを付与した。
- (2) 公開勉強会「海岸の連続性を考える II」: 森林分野 CPD として、9 名にポイントを付与した。
- (3) 技術を学べるセミナー: 森林分野 CPD を 15 名に、建設分野 CPD を 15 名にポイントを付与した。

10. 学会広報・交流事業

- (1) 総務部会 HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 総務部会主体による会員ブログ運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>
- (3) メールによる案内「ニュースメール」の配信
アドレスが登録されている個人会員と登録要請のあった賛助会員へ連絡事項を配信
- (4) メーリングリスト green-if の運営
希望者登録制の相互通信用メーリングリスト (2023 年 7 月末 250 アドレス登録)

11. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

① 日本学術会議公開シンポジウム / 第 15 回防災学術連携シンポジウム「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」(2023 年 4 月 11 日開催)において話題提供:「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」橘 隆一(斜面緑化研究部会 / 東京農業大学)

② 一般社団法人防災学術連携体 定時総会(オンライン) 2023 年 7 月 25 日開催

担当理事: 田中 淳が参加

③ 防災学術連携体 第 5 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」

ー防災・減災を担う人材をどう育成するかー 担当理事: 田中 淳が参加

④ その他 防災学術連携体および所属学会等からの情報提供、アンケート協力などに対応した

12. 緑化植物の取り扱い方の検討(緑化植物委員会)

7 回の会議を開催し、提言 2019 のビジョンの実現に向けたガイドラインや研究集会の内容について検討を行った。

「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」(案)に対する意見募集(3 月 29 日~4 月 16 日)を行い、意見を参考に原案を修正し、理事会に起草した。理事会の承認を受け、学会から「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」が公表された(日本緑化工学会誌第 48 巻 4 号掲載, 2023 年 5 月発行)。

13. その他事業

(1) 日本学術会議に関する協力団体としての対応 基本情報の登録/資料提供・情報交換

・「持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD2022)」への協力

(2) 他団体行事への後援・共催等

・2025 年国際芝草学会研究会議(ITRC)の後援

・日本緑化工協会 第 42 回緑化工技術講習会の後援 講師の派遣

開催日: 令和 4 年 9 月 15 日~9 月 16 日 会場: 東京農業大学

・日本緑化工協会 第 43 回緑化工技術講習会の後援 講師の派遣

開催日: 令和 5 年 7 月 24 日~7 月 25 日 会場: 東京農業大学

14. 会員数(令和 5 年 7 月末現在。括弧内は←前年度末, ←前々年度末, ←前々々年度末 の数)

(1) 名誉会員: 8 名 (←9 名 ← 8 名 ← 8 名)

(2) 正 会 員: 582 名 (←560 名 ← 569 名 ← 573 名)

(3) 学生会員: 79 名 (←65 名 ← 80 名 ← 72 名)

(4) 賛助会員: 53 団体 (←53 団体 ← 51 団体 ← 51 団体)

(5) 購読会員: 32 団体 (←33 団体 ← 35 団体 ← 34 団体)

※ 大会発表のため入会する学生会員に対する会費の優遇措置を 2015 年度より実施、継続

2022年度 収支報告書

(2022年 8月 1日 ～ 2023年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収 入 の 部	正会員費	4,400,000	4,110,000	-290,000	93.41	正 会 員 575名 / 今年度入金 514名 (@8,000)
	賛助会員費	1,820,000	1,855,000	35,000	101.92	賛助会員 53団体 / 今年度入金 53団体 (@35,000)
	購読会員費	256,000	294,000	38,000	114.84	購読会員 35団体 / 今年度入金 37団体 (@8,000)
	学生会員費	200,000	236,000	36,000	118.00	学生会員 78名 / 今年度入金 59名 (@4,000)
	入会登録料	24,500	32,200	7,700	131.43	46名 (@700)
	英文誌購読料	132,000	26,400	-105,600	20.00	
	投 稿 料	500,000	342,000	-158,000	68.40	Vol.48-1 ～ Vol.48-4 分
	広 告 料	1,000,000	1,380,000	380,000	138.00	Vol.48-1 ～ Vol.48-4 分
	雑 収 入	1,000,000	759,891	-240,109	75.99	別刷・BN販売収入、著作権使用料、利息等
	小 計	9,332,500	9,035,491	-297,009	96.82	
	繰 越 金	6,972,355	6,972,355			
	合 計	16,304,855	16,007,846	-297,009	98.18	
支 出 の 部	会 議 費	50,000	0	-50,000	0.00	理事会 会議室借上げ費
	旅費交通費	100,000	13,560	-86,440	13.56	理事会交通費
	事務人件費	335,000	751,749	416,749	224.40	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料、Web サイト更新費
	通 信 費	330,000	347,324	17,324	105.25	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス
	事務用品費	100,000	75,642	-24,358	75.64	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	4,000,000	6,714,073	2,714,073	167.85	投稿査読等システム・J-stage掲載料、冊子体印刷製本発送、投稿手 数料補助費
	英文誌出版分担金	700,000	163,200	-536,800	23.31	英文誌出版分担金
	大会補助費	200,000	200,000	0	100.00	大会開催補助費
	研究部会補助費	700,000	0	-700,000	0.00	研究部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	-400,000	0.00	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文) 部門・技術報告部門)・緑化植物委員会
	事務委託費	1,850,000	1,853,883	3,883	100.21	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	180,000	20,000	112.50	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	-25,000	0.00	災害調査費用 他
	雑費	30,000	7,395	-22,605	24.65	振込手数料 他
	記念事業費	50,000	-21,538	-71,538	-43.08	参加費収入¥41,538
	基金積み立て	0	0	0	0.00	
	小 計	9,030,000	10,285,288			
	予備費	7,274,855	5,722,558	-1,552,297	78.66	
	合 計	16,304,855	16,007,846	-297,009	98.18	

次期繰越金		5,722,558
-------	--	-----------

2022年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2023年9月1日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久



2022年度 貸借対照表（和文誌・英文誌）

2023年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	25,751	前受け会費	346,000
預 け 金	7,503,576	未払い費用	997,700
未 収 金	666,950	基 金	1,130,019
		次期繰越金	5,722,558
合 計	8,196,277	合 計	8,196,277

－ 財 産 目 録 －

資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	25,751
預 け 金	みずほ銀行 本郷支店	1,891,402
	本郷郵便局	4,482,155
	三井住友	1,130,019
	小 計	7,503,576
未 収 金	BN販売	6,350
	別刷り代	28,600
	投稿料	75,000
	会費	227,000
	広告費	330,000
	小 計	666,950
合 計		8,196,277

負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受け会費	正会員	243,400
	賛助会員費	3,000
	購読会員費	8,000
	学生会員	91,600
	小 計	346,000
未払費用	事務人件費	168,300
	学会誌刊行費	829,400
	小 計	997,700
合 計		1,343,700

－ 会 計 監 査 報 告 －

2022年度(2022年 8月 1日 ～ 2023年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2023年9月1日

2022年度 日本緑化工学会

同上

監事 吉崎 真司

監事 田中 賢治

2022年度 基金 収支報告書

(2022年 8月 1日 ~ 2023年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収 入 の 部	前期より繰り越し	1,130,009	1,130,009	0	-	
	利子収入	0	10	10	-	
	一般会計より戻し入れ	0	0	0	-	新規積み立て
	合 計	1,130,009	1,130,019	10	100.00	
支 出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金		1,130,019
-------	--	-----------

2022年度 阿蘇プロジェクト活動 収支報告

2022年4月1日～2023年6月30日

日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会

	費 目	決算額	摘 要
収 入 の 部	公財自然保護助成基金 助成金	598,000	2022年4月 公益財団法人自然保護基金より入金
	2021年調査費	447,480	株式会社一成
	原稿料 造園学会	12,000	ランドスケープ特集寄稿
	環境省九州地方環境事務所	979,999	2022年普及事業
	繰越金・寄付金	143,049	2021年度末現金＋寄付金
	合 計	2,180,528	
	資材・消耗品費	91,741	調査、活動用資材購入費用等
	委託費	57,596	種子貯蔵・発送料 2022年使用種子分
	賃金・謝金	110,000	謝金等
	旅費	921,688	現地活動旅費、移動費用
	交通・通信・運搬費	310,956	宅配料金、現地輸送費
	印刷費	279,638	
	会議費	46,124	会場使用料
	借用費	257,550	現地施設借用・使用料
	雑経費	56,235	振込手数料／ボランティア保険
	学会本部繰り入れ費用	49,000	2023年6月 本部口座へ送金
	小 計	2,180,528	
	合 計	2,180,528	2023年5月 助成報告終了/確定済み
次期繰越金		0	

2022年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2023年7月7日

上記内容に相違が無いことを確認しました。

2023年9月4日

日本緑化工学会 経理担当理事

入山義久 

第三号議案

日本緑化工学会 令和 5 年度事業計画（案）

（令和 5 年／2023 年 8 月 1 日～令和 6 年／2024 年 7 月 31 日）

1. 第 54 回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日： 令和 5 年 9 月 20 日～22 日

開催地： 新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ（新潟県新潟市）および周辺

発表題数： 64 題（口頭発表 16 件、ポスター発表 48 件）

（論文 13 件、技術報告 23 件、研究交流発表 28 件）

公開シンポジウム「新潟の海岸から学ぶグリーンインフラ」（9 月 21 日）を実施

現地見学会「新潟の海岸で感じるグリーンインフラ」（9 月 22 日）を開催

※ 第 55 回大会は 2024 年 9 月（12～14 日）に東京農業大学にて開催予定。

※ 第 56 回大会は 2025 年 9 月に大阪公立大学にて開催予定。

2. 研究会等

(1) 生物多様性緑化研究部会

「未来の里山における人と自然を考える 連続講演会」を共催にて毎月 1 回開催

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

第 5 回：2023 年 8 月 2 日 秋山幸也「ナラ枯れで更新される雑木林／生物的现象」

第 6 回：2023 年 9 月 26 日 田口洋美

「山村の生物多様性を基盤とした狩猟採集活動から里山の未来を考える」

第 7 回：2023 年 10 月 4 日 小島渉「カブトムシとナラ枯れ（仮）」

第 8 回：2023 年 11 月 21 日 中沢一将「管理の一元的な記録（仮）」

その後も月 1 回程度開催予定

(2) 斜面緑化研究部会

・ 第 54 回日本緑化工学会大会にて研究集会の開催

研究集会 4 企画担当：橘 隆一

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）14：30～16：00 会場：201B

テーマ： 高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える（II）

・ 適宜 勉強会や現地見学会の開催を予定。

(3) 生態・環境緑化研究部会

① 阿蘇の現地活動の継続（阿蘇ワーキングチーム）

② 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と連携して地域性種苗の利活用促進に関わる活動を継続
（環境省直轄登山道における 2022 年度実播工実施箇所のモニタリング、維持管理を継続）

③ 在来緑化植物の地域性の検討、情報発信

(4) 緑・健康研究部会

「緑と人の健康」に関するオンラインセミナーを開催予定（開催時期未定）

(5) 第 54 回大会 企画研究集会

①研究集会 1 企画担当：今西亜友美

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）9：30～11：00 会場：201A

テーマ：OECD で生きる！生物のすみかとしての文化的緑地

②研究集会 2 企画担当：平林 聡・加藤 顕

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）9：30～11：00 会場：201B

テーマ：i-Tree による生態系サービス評価・実務での活用事例と日本発の新規機能実装への展望

③研究集会 3 企画担当：小林達明・森本淳子・岡 浩平

開催日時：2023 年 9 月 20 日（水）14：30～16：00 会場：201A

テーマ：ランドスケープの生態的レジリエンスを考える

（現在活動中の緑化工研究部会）

斜面緑化研究部会	都市緑化技術研究部会	生態・環境緑化研究部会
乾燥地緑化研究部会	積雪寒冷地緑化研究部会	緑・健康研究部会
生物多様性緑化研究部会	海岸林・沿岸域緑化研究部会	

3. シンポジウム

(1) 第 54 回大会公開シンポジウム

開催年月日：2023 年 9 月 21 日（木）14：30 ～ 16：45

会場：朱鷺メッセ 3F 302（中会議室）

テーマ：「新潟の海岸から学ぶグリーンインフラ」

(2) その他、企画シンポジウムの開催

4. 現地見学会

(1) 第 54 回大会現地見学会

開催年月日：2023 年 9 月 22 日（金）9：00 ～15：00

見学場所：柏崎市松波、新潟市青山海岸

テーマ：「新潟の海岸で感じるグリーンインフラ」

(2) その他、現地見学会の開催

5. 緑化工セミナー（記念・企画事業）

学会諸活動を PR すること、学生や若手に活動内容を積極的に伝え、当学会の魅力を伝えることを目的として「緑化工セミナー」を企画・開催。各セミナーを不定期に複数回開催予定。

(1) 「研究部会セミナー」（研究部会の活動内容をわかりやすく紹介）

(2) 「未来の緑化工セミナー」（若手による研究紹介、新博士紹介）

(3) 「技術を学べるセミナー」（緑化技術に関する発表・セミナー・緑化技術交流会）

6. 学会誌の発行：4回発行予定

- (1) 第49巻1号（デジタル版＋冊子版）：令和5年8月31日発行 171ページ（第54回大会特集号）
- (2) 第49巻2号（デジタル版＋冊子版）：令和5年11月末 発行予定
- (3) 第49巻3号（デジタル版＋冊子版）：令和6年2月末 発行予定
- (4) 第49巻4号（デジタル版＋冊子版）：令和6年5月末 発行予定

第49巻の発行形態はJ-Stageと全文PDFの併用とし、賛助会員・購読会員向けに冊子体を刊行する。冊子体の刊行は第49巻までとする。第50巻1号（2024年8月刊行）以降は電子化（J-Stageのみ）に移行する。学会誌電子化に伴いJ-Stageには掲載されないコラムや学会記事をニュースレターとして発行する。上記の学会誌の発行形態の変更に伴い、令和5年度をもって「購読会員」の区分を廃止する予定である。このことについて、令和6年通常総会で会則の改定を審議する予定。

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行：

4回発行予定（Vol. 19 No. 4, Vol. 20 No. 1, No. 2, No. 3）

8. 学会賞の授与

令和5年度日本緑化工学会賞の授与（令和6年総会にて授与予定）

9. CPD

第54回日本緑化工学会大会の公開シンポジウムおよび研究集会、現地見学会を森林・自然環境技術者教育会（JAFEE）のCPDプログラムとして登録し、CPDポイントを付与する。

緑化工セミナー等に、必要に応じてCPDプログラムとして登録し、CPDポイントを付与する。

10. 学会広報・交流事業

- (1) 総務部会 HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 会員ブログの運営と各部会 SNS 等との連携・管理
- (3) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、体制確保
- (4) メーリングリスト green-if の運営

11. その他

- (1) 緑化植物委員会 第54回日本緑化工学会大会にて研究集会の開催

開催日時：2023年9月20日（水）16：15～17：45 会場：201A

- (2) 学術会議への参加協力および活動
- (3) 防災学術連携体における活動
- (4) その他（随時・適宜実施）

令和5(2023)年度 予算書(案)
令和 5(2023)年 8月 1日 ~ 令和 6(2024)年 7月31日

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	令和 4年度 決算額 (B)	決算額との 差額(B-A)	摘 要
収 入 の 部	正会員費	4,080,000	4,110,000	-30,000	510名@8,000
	賛助会員費	1,855,000	1,855,000	0	53団体@35,000
	購読会員費	280,000	294,000	-14,000	35団体@8,000
	学生会員費	220,000	236,000	-16,000	55名@4,000
	入会登録料	24,500	32,200	-7,700	35名@700
	英文誌購読料	20,000	26,400	-6,400	冊子5名@4,000
	投 稿 料	340,000	342,000	-2,000	
	広 告 料	1,000,000	1,380,000	-380,000	
	雑 収 入	750,000	759,891	-9,891	別刷・BN販売収入、著作権使用料、利息等
	小 計	8,569,500	9,035,491	-465,991	
	繰 越 金	5,722,558	6,972,355		
	合 計	14,292,058	16,007,846	-1,715,788	
支 出 の 部	会 議 費	50,000	0	50,000	理事会 会議室借上げ費
	旅費交通費	100,000	13,560	86,440	理事会交通費
	事務人件費	505,000	751,749	-246,749	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料、HP作成費 ¥170,000
	通 信 費	350,000	347,324	2,676	会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoomライセンス
	事務用品費	100,000	75,642	24,358	学会賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	5,000,000	6,714,073	-1,714,073	投稿査読等システム・J-stage掲載料、冊子体印刷製本発送継続
	英文誌出版分担金	165,000	163,200	1,800	英文誌出版分担金
	大会等補助費	400,000	200,000	200,000	大会 ¥ 200,000、緑化工セミナー ¥ 150,000、シンポジウム・現地見学会 ¥ 50,000
	研究部会補助費	700,000	0	700,000	研究部会活動費補助
	委員会等経費	400,000	0	400,000	会議室使用料・旅費、編集委員会(通常号)・編集委員会(大会号論文) 部門・技術報告部門)・緑化植物委員会
	事務委託費	1,860,000	1,853,883	6,117	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)
	諸会費	160,000	180,000	-20,000	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	25,000	災害調査費用 他
	雑費	30,000	7,395	22,605	振込手数料 他
	記念事業費	0	-21,538	21,538	
	基金積み立て	0	0	0	
	小 計	9,845,000	10,285,288	-440,288	
	予備費	4,447,058	5,722,558	-1,275,500	
	合 計	14,292,058	16,007,846	-1,715,788	

2023年9月1日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久

2023年度 基金 予算（案）

	勘定科目	予算額	備考
収入の部	前期より繰り越し	1,130,019	
	利子収入	10	
	一般会計より戻し入れ	0	
	合 計	1,130,029	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	0	
	一般会計へ貸し出し	0	
	合 計	0	残高予定 ¥ 1,130,029
次期繰越金		1,130,029	